

会議録

会議の名称	令和5年度第1回川越市上下水道事業経営審議会
開催日時	令和5年8月10日(木) 午後1時55分 開会 ・ 午後3時45分 閉会
開催場所	川越市役所 7階 7A・7B会議室
議長(会長) 氏名 *敬称略	議長:青木 亮(会長)
出席者(委員) 氏名(人数) *敬称略	青木亮(会長)、佐野勝正(副会長) 村山博紀、吉敷賢一郎、柿田有一、片野広隆、桐野忠、小ノ澤哲也、中原秀文、 山崎宏史、宮岡寛、新井康夫、山口陽子、横山三枝子、小池均 の各委員(15名)
欠席者(委員) 氏名(人数) *敬称略	棚沢利郎、菅間和範 の各委員(2名)
事務局職員 氏名(職名)	大成一門(上下水道局長) 【財務課】 矢野雄一(課長) 【給水サービス課】 依田光司(課長) 【事業計画課】 小林武(上下水道局副局長) 【水道課】 新井賢一(参事) 【下水道課】 西村雅喜(課長) 【上下水道管理センター】 石戸祐仁(所長) 【総務企画課】 内田真(上下水道局副局長)、佐藤俊一(副課長)、野原茂久(副主幹)、 高梨義久(主査)、児玉陽介(主査)、佐々木亮(主査)
傍聴人(人数)	1名
会議次第	別紙のとおり

配布資料

(事前に配布した資料)

- 資料1 川越市上下水道事業経営戦略の中間見直しについて
- 資料2 藤原町雨水貯留施設築造事業について
- 川越市上下水道事業経営審議会条例
- 川越市附属機関等の会議の公開に関する実施基準
- 川越市上下水道事業経営審議会の傍聴に関する要領

(当日の配布資料)

- 会議次第
- 川越市上下水道事業経営審議会委員名簿
- 内水ハザードマップの見直しについて

議事の経過	
発言者	議題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
	<p>1 開会</p> <p>2 委員自己紹介</p> <p>3 職員紹介</p>
議長	<p>【傍聴希望者の確認】</p> <p>傍聴希望者1名の入室が許可された。</p>
事務局	<p>4 報告事項</p> <p>(1) 川越市上下水道事業経営戦略の中間見直しについて</p> <p>[資料1に基づき説明]</p>
副会長	<p>8ページ目の「収支ギャップ解消のためのシミュレーション」とはどのようなものか。</p>
事務局	<p>料金回収率と経費回収率について100%を割り込んでいるということで、それぞれ水道、下水に係る経費を、料金収入で賄えていないということになる。この収入と支出のバランスがイコールになっていないという「ギャップ解消」のためのシミュレーションを再度実施するということになる。</p>
副会長	<p>シミュレーション期間はどのくらいを予定しているのか。</p>
事務局	<p>10年を想定している。</p>
副会長	<p>料金回収率と経費回収率を見ると、普通はこのような数字はありえない。経営破綻レベルだと思うが、やらなければならない事の先延ばしは良くない。当然やる事をやらなければ指標は良くなる訳なので事業をきちんとやりながら良い比率を維持することが大事なことである。</p>
委員	<p>水道の使用量が増えれば収入が増えると思うが、水道の使用量を増やす努力、水道水をたくさん使ってもらおう努力というのは、どのようにされているのか。それから川越市の水道水の安全性をホームページで公表していると伺ったが、ホームページは、字が小さくて見づらい表が載っており、とても市民へのアピールにはなっていないと思うがいかがか。</p>
事務局	<p>ホームページの視認性についてはすぐにでも改良できるので担当課とも協議をし、より見やすいホームページ掲載を考えていきたい。</p> <p>また、水道水をいっぱい使ってくださいといった営業活動みたいなもの</p>

	<p>は非常に難しいと考えている。下水道に関しては、しっかりと下水道に繋いでいただく指導を継続することで、収入を増やす取り組みを行っていきたいと考えている。</p>
委員	<p>災害に備えた水の備蓄でいうと、例えば水道水を備蓄してもらうような工夫はしないのか。水道水が美味しければ、高い水を買わなくなると思うので、「川越の水道水は美味しい水です」という広報が少ないのだと思っているがどのように考えているか。</p>
事務局	<p>「おいしい、まずい」という味に関しては、それぞれの感じ方の部分もあるので難しいが、川越市としては水質的にも問題ない水を提供していると考えているため、今後周知方法等について検討していきたい。</p>
副会長	<p>市の方では答えにくいと思うので、補足させていただくと、水道水をどんどん使って使用量が増えたらいいという話があったが、全体で見れば水は不足している。八ッ場ダムを作った理由の1つに「水源確保」があるが、安定供給のために水を確保しなければならない状況である。つまり逆に私たちは節水をしなければならないことになる。それと水道水の備蓄に関しては衛生上の問題があり、これもなかなか難しいと思われる。</p>
会長	<p>美味しい水とコストには相関関係があり、「美味しい水を飲みたい」けど「料金が上がる」となると、誰もが「それは別の話だ」となるのではないかと考える。</p>
委員	<p>インフラの耐用年数が50年と言われる中で、川越市においても、水道と下水道は普及してきた過程が違うと思うが、それを更新していく中でアセットマネジメントや、工事計画等を踏まえたものはどこかで示されているのか。</p> <p>また、労働人口がだいぶ少なくなっているというニュースを目にするが、上下水道施設の更新をする上で、そうした事情による費用の上昇や、工事の完了までにかかる時間というものを加味する必要があるのではないかと危惧している。</p>
事務局	<p>労働人口関係については今後、計画の改訂を検討していく中で、調査をしながら盛り込むべき内容について検討していきたい。施設の老朽化への対応については、当然アセットマネジメント等も作っているので、他の計画ともリンクしたものとなるよう、今後の経営戦略に盛り込んでいくべきだと考えている。</p>
委員	<p>経営戦略策定・改定のガイドラインが持つ拘束力と、社会資本整備総合</p>

	<p>交付金の規模を教えてください。</p>
事務局	<p>拘束力に関しては、毎年県からのチェックが入るため、内容によっては、交付金の要件が満たされなくなる場合があると考えている。</p>
事務局	<p>交付金の規模に関しては、3年度決算において、繰越分を合わせて1億1,678万円となっている。</p>
副会長	<p>ガイドラインの拘束力について、県の検査なんてそんな生ぬるいものではないはずである。国の指導が確実に入る。</p>
事務局	<p>県のチェックに関しては、取りまとめが県であるということで、国が基になっているという様に理解はしている。</p>
委員	<p>収支均衡させる方向に向かうのを全部否定する訳ではないが、内部留保資金は一定程度あるので、これまで安定して運営されてきていると考えている。ただし、工業で使用される水が少なくなってきているので、傾向としてそのようなところが増えないと収支均衡は難しい。また、市に水を売っている埼玉県としては、ダム建設の経費もあるため、収支を安定させるための値上げということがあると思うので、そのことをしっかりと分かった上で市の料金改定が議論されるのは良いと思うが、是非慎重にやっていただきたいと考えている。</p>
委員	<p>調整区域の下水道整備について今の経営戦略では、収益性や費用対効果を鑑みてまだ有益であるというところはまだ広げるような記載があり、そういった部分も含めて、原価計算などを行い、これからを見通す必要があると感じているが、その辺の考えを簡単に教えてもらいたい。</p>
事務局	<p>経営戦略の改定にあたっては、投資・財政計画が必要になってくる。投資を試算するにあたっては、下水道整備区域を拡充していくのか否かといったところは、非常に重要な指標になるので、その点は、戦略に盛り込んでいければと考えている。</p>
副会長	<p>当たり前のことではあるが、不採算の事業は一般企業であれば事業廃止とすることがあるが、上下水道は、市民のインフラだからそういう訳にはいかない。収入面はいざという場合は利用者の理解を得て「値上げ」と言う方法があるが、費用の削減というのは非常に難しいと考える。</p>
事務局	<p>現在川越市では水需要が減っている中でダウンサイジングや浄水場の統廃合など水道施設の維持管理について検討している。</p>

	<p>下水道では、市街化調整区域の整備を進めているが、市街化区域に比べて費用対効果が望めないといった状況がある。今後そういったところも市民の皆さんに知っていただき、事業継続のために、計画縮小の必要があれば、説明していく責任があると考えている。</p> <p>(2) 藤原町雨水貯留施設築造事業について [資料2に基づき説明]</p>
副会長	<p>概要図の雨水貯留施設に雨水がどのように溜まっていくのか具体的に説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>藤原町第一公園内の雨水貯留施設では、概要図にある黄色いエリアの地区の雨水を対象としている。赤い点で示した貯留施設の方に、大雨の際には雨水を集め一時的にストックしておき、最終的には点線で示した江川1号雨水幹線に水を流すことになる。</p>
事務局	<p>通常は地区に降った雨は、雨水管の中を流れていき江川にダイレクトに流れていくが、マンホールの中に堰を設けておき、大雨、ゲリラ豪雨等の時間20ミリ以上の雨が降ったときに、その堰を越流した雨水だけを一時的に雨水貯留施設にストックする、いわゆるピークカットを行う運用となるため、通常の雨では施設に雨水は入らない。</p>
委員	<p>高階中学校にも調節池の様な施設があり敷地内に雨水を貯められると思うが、同じようにこちらの施設でも台風などの際に寺尾調節池がオーバーフローしないよう雨水を調節すると考えてよいのか。</p>
事務局	<p>その通りである。高階中の貯留施設については、中学校の敷地内に降った雨を外に出さないための貯留施設である。</p> <p>5 その他 内水ハザードマップの見直しについて [事務局より、資料に基づき説明]</p>
副会長	<p>地表の状態が畑とコンクリートでは全く浸透度合いが違うが、どのように加味しているのか。また、水が出た場合に地表により捌ける時間が全く違うが、そのあたりはこの内水ハザードマップを見るとき、どのように考えたらいいかご説明いただきたい。</p>
事務局	<p>今回の対象降雨は現行の72.5ミリから、想定最大153ミリと倍以上に設定している。これを単純にシミュレーションにかけてしまうと、やはり時</p>

	<p>間 153 ミリという猛烈な雨を降らすと大概のところまで浸水してしまう。それでは市民の方に示しても、何の意味もないため、住んでいるところの現実的な浸水のリスクを目で見て備えてもらうということで、一定程度の雨は下水や側溝の排水能力で吸い込んでくれるという前提のもとレイヤーをかけ、改めてシミュレーションを行い、浸水想定区域を色付けしたというのが今回のポイントになっている。浸透度合いについては市街地と農地というのは流出係数を分けて、レイヤーをかけている。どのぐらいの時間で水が捌けるということについて、シミュレーションは行っている。</p>
<p>委員</p>	<p>この内水ハザードマップに色付けされるような、水が膝のところまで溜まるような場所で、土を掘り返しその中に浸透するような土壌改良を行ったところ、昨年度の大雨のときにはほぼ中に吸い込まれたということ話を聞いている。内水ハザードマップを公開するだけではなく、できれば土壌改良のような提案までできると、単純に下水道に流せばいいというわけではなく、湧水が少なくなっている川越の現状という観点からも変わっていきけるのではないかと思う。不老川も地下水の枯渇によって表面を流れている水が少なくなっている状況で、下水道の仕事ではないかもしれないが、湧水の復活のための何か策を考えてくれると嬉しい。</p>
<p>事務局</p>	<p>雨水の再利用に関しましては、各家庭の、屋根に降った雨水を貯める小型貯留槽や宅内で地中に浸透させる施設の設置に補助金を出しており、各家庭において地下に雨水を浸透させてもらうような取組みを行っている。</p>
<p>委員</p>	<p>シミュレーションの前提条件の確認だが、時間 153 ミリが何時間続いた場合を想定しているのか、それが市内全域にまんべんなく降ったという想定なのか。それがわかればもう少し全体の雨水の総量がわかると思うので、前提条件を詳しく教えてもらいたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>1 時間あたりの雨量を、10 分単位のピークの山を作りシミュレーションをしている。今回は現況の 72.5 ミリの対象雨量について、過去のデータを基にした 10 分単位のピークの山の合計が 153 ミリになるように、シミュレーションをかけている。経過時間は 1 時間で市内全域まんべんなく降ったときとしている。</p>
<p>委員</p>	<p>周知については、広報川越 9 月号とその後の広報でも特集ページでお知らせするという説明があったが、私共に寄せられる要望では、障害者の方は情報をどのように手に入れたらよいのかということをよく聞くが、今回は時間 153 ミリの大雨というこれまで経験したことないという話であり、対象範囲が増えれば不安に思う方がたくさんいる。障害者、特に視覚障害者の方や団体に向けては、何か周知方法を考えているのか。</p>

事務局	現時点で特別なことは考えていないが、問い合わせがあり団体の方から説明に来て欲しいという要望があれば、現在同様、出張という形で対応していくことになる。
委員	できれば受け身の体制ではなく、大事な市民の命を守るものだから、市の方から積極的に見直しについて伝えてほしい。
副会長	内水ハザードマップの見方として、先ほど1時間に153ミリの雨とあったが、例えば雨水が時間50ミリというものが何時間も降り続けている状況では、内水ハザードマップで塗られていない地区でも決して安全ではないという理解でよいのか。
事務局	これは当然シミュレーションのことなので、長雨の中で153ミリ降るとカラカラに乾いている状態で153ミリ降るというのは当然状況が違ってくる。塗られていないから安全だということではなく、リスクとしてさまざまな可能性があるということを確認し、集中豪雨等のときに備えるためのツールとして活用してもらうことを考えている。そのような内水ハザードマップの見方という点も含めて今後丁寧に発信していきたいと思う。
副会長	なぜこのような質問をしたかというところ、ここは危ないからと言うけれど、降雨量が少なくても何時間も雨が降っているが、塗られていないと安心してしまう。昨今は集中豪雨以外にも、線状降水帯を伴う長い雨が多い。説明のとおり読み方としてこれは一つの参考であり、条件が変われば浸水する可能性があるということをよく広報していただきたい。
事務局	事務局より、今年度の審議会スケジュールや委員報酬について説明
	<p>6 閉会 閉会のことば（佐野副会長）</p>